

和歌山県白浜町産アメフラシ（軟体動物門，後鰓類）の体色変異

久保田 信*

Shin KUBOTA: Color variation of *Aplysia (Varria) kurodai* (Mollusca, Opisthobranchia) at Shirahama, Wakayama Prefecture, Japan

北海道を除くわが国沿岸に広く分布する大形後鰓類の一種アメフラシ *Aplysia (Varria) kurodai* (BABA) は、体色が黒褐色ないし紫黒色の地に灰白色の細かな不規則斑を多数散りばめる個体が普通のものとなされ(馬場, 1973; 濱谷, 1989, 1992), 和歌山県白浜町沿岸においてもこの傾向が認められる。ところが、白浜町湯崎漁港内に生息するアメフラシ個体群では体色の変異が著しく、斑紋がない黒色個体から、完全なアルビノとまではいかないが白色が目立つ個体まで見られる。1999年と2000年の春季(アメフラシの出現時期)に多数回の継続観察の結果、白色個体の頻度がさほど多くないことおよび黒色個体が意外に多いことがわかった。そこで各個体をおおまかに黒色個体(黒色部分の占める表面積の割合が全体の85%以上)・白色個体(黒色部分が20%以下)・ぶち個体(残りの個体で、上記のように普通に見られる個体)の3タイプに分割し、それぞれの頻度を調べたので報告する。2000年4月13日に湯崎漁港では最多数の個体が発見し、今回はその調査結果のみを示す。この日は快晴で暖かく、風波が全くなかった。

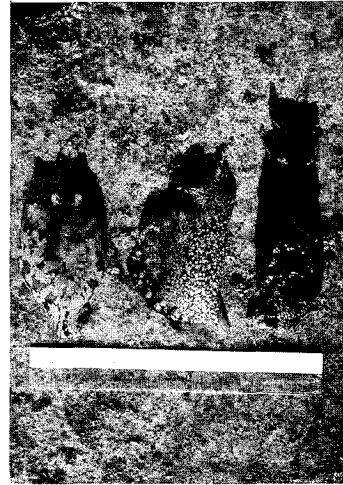


図1 和歌山県白浜町湯崎漁港のアメフラシの体色変異(左: 白色個体, 中央: ぶち個体, 右: 黒色個体).
Fig. 1. Color variation of *Aplysia (Varria) kurodai* from Yuzaki Port, Shirahama, Wakayama (left: white, middle; spotted, right: black).

和歌山県白浜町湯崎漁港内アメフラシ個体群の3タイプ(図1)の頻度(N=55)

黒色個体 56.3%
ぶち個体 32.7%
白色個体 10.9%

これらのほとんどの個体は湾の最奥部で見られた。干潮時、コンクリート製の堤防上(図1)に取り残されている個体も多かった。

考 察

湯崎漁港の個体群は体色に関して何らかの遺伝的変異があると推察される。湯崎漁港近隣の白浜町瀬戸漁港および番所崎沿岸では、中形と大形の白色個体はごく稀にしかみられない(久保田, 未発表; 図2)が、今回の観察では肉眼で充分観察できる大形個体(体長約10 cm

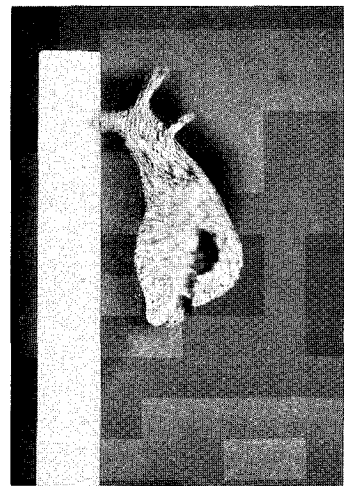


図2 和歌山県白浜町瀬戸漁港のアメフラシ白色個体。
Fig. 2. Whitish individual of *Aplysia (Varria) kurodai* from Seto Port, Shirahama, Wakayama.

* 京都大学大学院理学研究科附属瀬戸臨海実験所(〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町) Seto Marine Biological Laboratory, Graduate School of Science, Kyoto University, Shirahama, Nishimuro, Wakayama 649-2211, Japan

以上)に限定して調査したので、今後は小形個体も含めたより詳細な調査が必要であろう。また、各個体の体色が成長に伴い変化するか、あるいはタイプごとの生残率などの相違があるかなどを明らかにする必要がある。

謝 辞

本稿を査読してくださいました濱谷 巖先生に感謝致します。

引用文献

- 馬場菊太郎. 1973: 新日本動物図鑑 [中], 4版. p. 166, 図624, 北隆館, 東京.
- 濱谷 巖. 1989: アメフラシ科. *in* 奥谷喬司編・監修, 決定版生物大図鑑 貝類 (第2刷). pp. 214-215, 世界文化社, 東京.
- . 1992: アメフラシ目. *in* 西村三郎編著, 原色検索日本海岸動物図鑑 [I]. pp. 271-272, Pl. 52, 図8-9, 保育社, 大阪.